

科目「中学美術 1」シラバス

1. 中学3年間での教科到達目標

①絵画、立体、デザイン、工芸を中心に美術を通じて材料の扱い方や基本的な表現手段の基礎を習得する。	②創造的な感性と個性を活かし、芸術性の追求を目指す。	③ 美術の授業を通じて、芸術を愛好する豊かな情操を育み、個性を認め合う、柔軟でおおらかな鑑賞力と知識を習得する。
--	----------------------------	--

2. 科目の到達目標と評価の観点

(教科名) 美術 科目 美術 1	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	1 単位	第 1 学年	教科書：美術 1 日本文教出版 副読本：新造形と美術 浜島書店
学習の到達目標	基礎的な画材の扱い方の習得と、描写力を身につける。個性豊かな表現を主体性を持って研究することを目標とする。		
評価の観点	<知識・技能> 基礎的な描写力と、技術。作品に対する真摯な取り組む姿勢を評価する。		
	<思考力・判断力・表現力> 作品に対しての思考や責任感。個性豊かな表現力を評価する。		
	<主体性・多様性・協働性> 授業中の主体性を持った制作態度と、個々の作品を認め合う柔軟でおおらかな視点を評価の対象とする。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの	・・・	100%
B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	・・・	80%
C：「努力を要する」状況と判断されるもの	・・・	60%
D：未提出、未実施	・・・	0%

【教科横断、外部との連携】

- ①授業中に制作した作品を公募展に出展する。
- ②美術史を日本、世界史を踏まえて学び、作品を鑑賞する。

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期	美術ガイダンス ① 美術の教科書紹介 ② 画材の説明 ③ 美術室の説明	○一年間を通じて教科書と副読本を活用する。 ○絵の具セット、スケッチブックの扱い方を学ぶ	○美術の授業に必要な道具類の把握。教科書と画材等に、名前記入をすることで紛失予防の徹底。 ○教室内の設備、備品の扱い方の周知。 ○欠席者への配慮。ロイロノートの使い方の説明
4 月	○1学期課題 「色相環」 デザイン基礎	○色相環の下描き ○色彩の基礎を学ぶ。 教科書を参考にしながら、色彩の性質や働きを学び主に色相、明度、彩度の3つの要素を取り入れて描く。	○鉛筆、定規、コンパスを用いて図面の下描き制作。 ○教科書P72 ○副読本P46～47 画材の扱い方を着彩しながら習得。 スケッチブック、アクリルガッシュ絵の具セットを使用。
5 月		○絵の具や筆の使い方を学ぶ 作品 ○作品画面に色の名前、絵の具名、色相についての記述を行う。	○下描きの線をはみ出さないように彩色。 ○提出に必要な要素が描かれているか確認。 ① 全てのマス目に着彩。 ② 色相の用語、絵の具、色の名前記入。
6 月			
7 月	○絵画制作 パステル画 「お話の世界」	○自分の選んだお話から、イメージを膨らませ、絵画構成する。 ○パステルの画材の扱い方を学ぶ。 ぼかし、混色、練り消しゴムの技法を習得する。 ○作品の裏側に自分の選んだお話の場面の解説と理由を書く。	○過去の作品を鑑賞。 ○パステルの画材に慣れる事で、多彩な表現方法を習得。 ○提出に必要な要素が描かれているか確認。 ①パステルの混色。 ②解説と理由の記述。

夏休み課題	○夏休みの課題 「夏休みの思い出」 美しい風景との出会いや、心に残る風景を絵に表現する。 アクリルガッシュ又は水彩絵の具を用いて画用紙1枚に描く。	○普段の身近な風景や、思い出の場所などを、鉛筆スケッチして着彩。 ○旅行などの場所を描く場合、写真を撮り後で制作。 ○対象の風景が、時間と共に変わりゆく様子をスケッチすることで体感する。	○教科書P16～17 ○対象となる風景をよく観察する。 ○風景の写真撮影可。 ○アクリルガッシュ絵の具の特性を活かし水分量の調整、重ね描き。 ○2学期最初の授業内に提出。
2学期 9月 10月	○2学期課題 粘土作品 「喜びの形、悲しみの形」 塑造用粘土 ①エスキース ②粘土土台作り ○文化祭の展示のための作品準備。 ③粘土心棒制作	○立体表現の基礎を学ぶ。 ○教科書の参考作品と、過去の美術の授業で制作した参考作品を鑑賞する。 ○アイデアを考える。各自のスケッチブックに喜びと悲しみをテーマにして、アイデアスケッチを描く。 ○木製の土台を作る。 木工用ボンドで固定し、そりかえしのないように気を付ける。 ○1学期課題作品、夏休みの課題の展示用の準備を行う。 (名札、台紙貼り、ファイル) ○エスキースをもとに土台に心棒を作る。 ○針金の空洞部分に新聞紙を詰める。	○教科書のP6～11 P14～15 ○副読本P36～40 ○テーマ 「喜びの形、悲しみの形」を自分の考えや体験を元に具体的な形を創造。 ○参考作品の鑑賞 ○木工用ボンドの扱い方を学ぶ。 ○乾燥するまで重しを置く。 ○ロイロノートにレクチャー画像を配信。 ○材料の紹介、使い方の説明 針金、ペンチ、万能ハサミ ○心棒を作る際、注意すること。 ①しっかりと固定。 ②針金の巻き方。 ③土台と粘土のコンポジション。

11月	④粘土付け ❶ エスキースを見ながら制作する。	○立体的な形の心棒は、しっかりと土台に固定されている必要がある。 ○一回の制作時間が短いため粘土の扱い方に注意する。 使用する粘土は、乾燥したのち再生不可能であるため、制作の手順に工夫が必要である。	○心棒がしっかりと固定されているか確認。 ○生徒の作品に個々に対応。 ○塑造用粘土は生徒1人に対し1袋だが制作が進むにしたがって足りない場合、補充用の粘土で対応。
2学期	⑤粘土付け ❷ 心棒の上に粘土を重ね、形を作る。 ⑥粘土付け ❸ 仕上げに向けてより具体的な形を作る	○粘土の扱い方、立体表現を学ぶ。 ○色々な方向から作品を見て形を作ることを学ぶ。 ○粘土表面に霧吹きを用いて水をかけることで制作しやすくする。	○ロイロノートにレクチャー画像を配信。 個々の欠席者に対応した配信。 ○細かいパーツを作る場合、粘土ヘラ、めん棒、ようじなどの道具類を工夫して使用。 ○細かなパーツを木工用ボンドで接着。
12月	⑦着彩 アクリルガッシュ絵の具を使用。 ⑧仕上げニスを施す。 木工用透明ニスを使用。	○絵の具の粘度が高いと表面に細かな亀裂が入る事がある。 ○土台部分の着彩をすることで、完成度の高い作品を目指す。 ○絵の具が完全に乾燥したのち、木工用透明ニスを1～2回、作品全体に塗る。 ○パーツを接着する。 木工用ボンド ○作品に題名、学年、氏名の書いた名札を貼る。	○必要な画材 ①アクリルガッシュ絵の具セット ②木工用ボンド ③黄色バケツ ○画材を忘れた生徒に対応するため、絵の具、筆、パレットの貸し出しの準備。 ○ニスの塗り方の注意点 ①ニスの量の加減。 ②自然乾燥。 ○提出作品に名札が貼ってあるか確認。 ○作品の提出場所は教室内の青いかご棚。

12月	○作品提出の確認。 ○欠席者に対応。 ロイロノートに作品画像の提出を促す。	○作品に名札を付けていない生徒に連絡する。 ○作品未提出者に連絡する。	○欠席者に対応 ロイロノートに画像を提出もしくは作品実物を美術準備室に提出。
3学期 1月	○3学期課題 「レタリング」 デザイン基礎 ①下描き 「永」の漢字の明朝体。 ②「永」レタリングの着彩。	○明朝体、ゴシック体を主に漢字、アルファベットのレタリングを描く。 ○ポスターを描く場合に必要 な技法を学ぶ。 ○黒板にレタリングを作画する。 生徒と同時進行で作画することで、より分かりやすく説明する。 ○アクリルガッシュ絵の具で 着彩する。 ○下描き線をはみ出さないように 着彩する	○教科書P42～45 副読本P54～55 ○画用紙に作画用のマス目を描く。 ○必要な画材 ①スケッチブック ②鉛筆 ③定規 ④アクリルガッシュ絵の具 ⑤レタリングのプリント ○ロイロノートにレクチャー 画像を配信。 欠席者に対応。 ○アクリルガッシュ絵の具は ブラックを使用。 ○絵の具の水分量を調整。
2月	③アルファベットのデザイン アイデアと、下描き。 1文字自由にデザインする ④アルファベットの着彩 ⑤提出 ○西洋美術史を学ぶ。①	○アルファベットの下描き線 とデザイン画を鉛筆で描く。 ○アクリルガッシュ絵の具を 用いて着彩する。 ○作品に名札を付けてクラス ごとに乾燥棚に提出する。 ①「初期キリスト、ビザンティン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス美術」	○デザインを自由に考える。 ○参考作品を鑑賞。 ○画用紙の白色部分を活かし 効果的な色彩の表現を目指す。 ○下描き線からはみ出さない ように着彩。 ○名札の付け忘れの確認。 ○教科書、副読本を使い 参考資料を見る。

3 学期 3 月	○西洋美術史を学ぶ。②	②「ロマネスク、バロック、ロココ、ロマン派、印象派、ジャポニズム、表現、フォーヴィズム、キュビズム、抽象、シュルレアリスム、現代」	○プリント 2 枚に記入しながら授業。 ○参考資料を鑑賞しながら具体的に作品の解説。 ○プリントを提出。 ○ロイロノートに配信。
	○3 学期課題の提出 ①レタリング着彩画 1 枚 ②西洋美術史プリント 2 枚	○欠席者に対応。 ロイロノートに作品画像を提出。	○欠席者に対応。 学校登校時に作品実物を提出するように連絡。

3. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<知識・技能> ○対象をよく観察し描写することができる。 ○表現する内容を深く思考する能力がある。 ○丁寧な作業工程である。 ○芸術に対して好奇心をもち、工夫をすることができる。 ○作品の完成度を高め、上げることができる。	○学期課題の提出作品。 ○授業中の作品への取り組み方。 ○授業中の制作態度。
<思考力・判断力・表現力> ○個性豊かな感性であること。 ○アイデアなどの発想力が豊かであること。 ○作品の内容を深く思考することができる。	○学期課題の提出作品。 ○授業中の制作態度。 ○制作途中のスケッチブックのエスキース。
<主体性・多様性・協働性> ○画材や道具を正しく扱うことができる。 ○制作の準備を整えることができる。 ○教室内の片付けを行うことができる。 ○他の人の作品に対し、認め合い配慮することができる。	○授業中の様子。 ○授業後の片付けの様子。 ○画材の扱い方。 ○文化祭の準備の様子。 ○画材の忘れ物

【提出物状況の評価基準】

- A：作品が完成した状態で提出期限を守り、名札を貼っている。
 （ロイロノートに画像を提出した場合、個別に対応する）
 B：作品は完成し、名札を貼っている状態だが、提出期限を守っていない。
 C：「努力を要する」状況と判断される
 D：作品未提出の状態。